

【特集】

2次で必要な1次の理論

中小企業診断士の応用能力をアップする

診断士試験において、

1次と2次のつながりをどのように意識すれば、効果的・効率的に学習できるだろうか。

本特集では、平成29、30年度試験を題材にして、2次の解答作成におけるプロセスと

1次知識の応用の仕方を丁寧に解説する。毎年恒例の誌上添削付き！

江口 明宏

EBA中小企業診断士スクール統括講師 / 中小企業診断士



- 第 1 章 「出題の趣旨」からわかる2次の解答
——平成29年度 事例Iを解く
- 第 2 章 事例Iで求められる1次の理論
- 第 3 章 事例IIIで求められる1次の理論
- 第 4 章 事例I 例題
——先着30名様限定の無料添削付き

【特集】

2次で必要な1次の理論

第 1 章

「出題の趣旨」からわかる2次の解答

——平成29年度 事例Iを解く

江口 明宏

EBA中小企業診断士スクール統括講師
中小企業診断士



1 2次試験で求められる能力

中小企業診断士の2次筆記試験案内・申込書には、2次筆記試験で求められる能力について以下のように説明しています。

「2次試験は、『中小企業診断士の登録等及び試験に関する規則』に基づき、中小企業診断士となるのに必要な応用能力を有するかどうかを判定することを目的とし、中小企業の診断及び助言に関する実務の事例並びに助言に関する能力について、短答式又は論文式による筆記及び口述の方法により行います」

上記の「応用能力」とは何かを説明するために、中小企業診断士1次試験の目的を確認します。

「1次試験は、『中小企業診断士の登録等及び試験に関する規則』に基づき、中小企業診断士となるのに必要な学識を有するかどうかを判定することを目的とし、筆記の方法により行います」

これにより、1次試験では「学識を有するか」が試され、2次試験では「その応用能力」が試されているということが確認できます。一般的に2次試験は、「コンサルタントとしての能力」が問われていると思われていますが、正確には「1次試験の学識の応用」が問われる試験となります。

診断士試験の受験に先立ち、まずこの試験で期待される能力を正しく理解することが重要です。

本章では、平成29年度の2次試験問題と、平成29年12月26日に中小企業診断協会より公表された「出題の趣旨」を基に、2次試験で期待された解答を明らかにしていきます。出題の趣旨と本試験問題を比較することで、さまざまな情報が手に入ります。それらを分析することで、2次試験で期待されている解答が明らかになります。

2 「出題の趣旨」から事例Iを紐解く

平成29年度の事例Iについて「出題の趣旨」の観点から、解答を導き出していきます。

第1問 (配点20点)

景気低迷の中で、一度市場から消えた主力商品をA社が再び人気商品にさせた最大の要因は、どのような点にあると考えられるか。100字以内で答えよ。

【出題の趣旨】

創業後わずかな期間で高い業績をあげるに至った要因について、経営環境を考慮した上で分析する能力を問う問題である。